

アジア・アフリカ大陸の歴史

担当，岡留

先史時代（人類史 99%以上の時間 無文字時代）

※地質年代 地層の堆積により先カンブリア代・古生代・中生代・新生代に大別。

新生代（約 6500 万年前～）は第 3 紀・第 4 紀に分けられ，第 3 紀末に人類が登場したと推定。

第 4 紀はさらに更新世・完新世に分類。

《旧石器時代（250 万年前～1 万 3000 年前）ほぼ更新世に相当】》 = 数十回の氷期・間氷期

化石人類（古生人類）の出現

<猿人> 約 700 万年前～〔 1 〕 歩行・打製石器（礫石器）の使用に特色

700 万～600 万年前 サヘラントロプス 中央アフリカ（チャド）最古の猿人

約 440 万年前 ラミダス猿人 エチオピアで発見

約 400 万年前 〔 2 〕 群（南の猿）

約 200 万年前 ホモ=ハビリス {タンザニアで発見 猿人と原人の中間の化石人類}

※この頃から考古学上の旧石器時代が始まる

<原人> 約 180 万年前に出現 握斧・〔 3 〕・〔 4 〕を使用

70 万年前 ジャワ原人（直立猿人）石核石器（礫石器・握斧）を使用

50 万年前 〔 5 〕（シナントロプスペキネンシス）

1927 年に〔 6 〕の洞窟で発見。

約 40 万～30 万年前 ハイデルベルク人（南ドイツ）

《旧石器時代（中期）》

<旧人> 約 60 万年前に出現

約 20 万年前〔 7 〕人{ドイツ} ホモ=サピエンス（知恵ある人）

{剥片石器・飛び道具の使用・投げ槍・〔 8 〕の風習}

精神文化の発達→時間の概念，宗教観の成立 毛皮の衣服→氷河期に適応した生活へ

《旧石器時代（後期）》

<新人（現生人類）> 約 20 万年前～〔 9 〕人

剥片石器（石刃，細石器），骨角器使用，女性裸像製作} 約 4 万年前に出現

{洞穴美術(洞窟絵画)=アルタミラ（北スペイン）・〔 10 〕（南フランス）}

周口店上洞人 [周口店付近の竜骨山で発見]

グリマルディ人 [イタリア西北部の洞穴で発見 黒人の特徴]

静岡県三ヶ日人，浜北人

※中石器時代（旧石器と新石器の過度期の時代，細石器を使用）

《新石器時代（前期）（1 万～6000 年前）》 ※完新世（約 1 万 1700 年前～現在）

約 1 万年前…〔 11 〕時代が終わる→新人は温暖化した環境への適応

〔 12 〕，牧畜による食糧生産革命（新石器革命） 定住村落（竪穴住居）

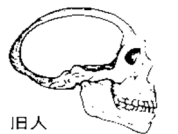
〔 13 〕経済→〔 14 〕経済



猿人



原人



旧人



新人

前 8000 年前の西アジア = 麦栽培・山羊，羊，牛飼育 [15] 土器の影響。
生産技術発展 ([16] 石器 = 石斧・石臼・石包丁使用)

農法の変化と国家の成立

初期農法 [17] 農法 (天水農法) … 雨水にたよる農法
略奪農法 … 肥料をもちいない (2~3 年間耕作をすると居住地を移動)

ジャルモ (メソポタミア上流 イラク東北部) イェリコ (パレスチナ)

前 5000 年頃～

[18] 農業 … メソポタミア (ティグリス・ユーフラテス両河に挟まれた地域) で開始
食料生産の増大により多大な人口を養うことが可能 → 国家の成立

大河の流域に文明が誕生

金属器の使用 ([19] 出現)

メソポタミア (前 4000 年頃～) エジプト (中王国以降～)
ヨーロッパ (前 2300 年頃～ : エーゲ文明) 中国 (前 1800 年頃～ : 殷周時代)
※ 鉄器時代 (前 1500 年頃, ヒッタイトが本格的に使用)

政治 (統治者の業績) や商業の記録のため [20] の出現 → 歴史時代へ
都市の発生 … 宗教・貿易の中心
階級の成立 … 神官・戦士などの役割が明確化

語族 = 19 世紀の言語学による区分

○ インド = ヨーロッパ語族

ゲルマン語・イタリック語・ギリシア語・スラヴ語・インド，イラン語など

○ ウラル語族 (ウラル山脈西側を現住地とする言語集団)

ハンガリー語・フィンランド語・エストニア語

○ アルタイ語族 (ユーラシア大陸のアジア地域に広がる)

トルコ語・モンゴル語・ウイグル語・ツングース語など

○ シナ = チベット語族 (東アジアと東南アジア地域)

タイ語・チベット語・ミャンマー語

[空欄解答 (先史時代)]

1, 直立二足 2, アウストラロピテクス 3, 言語 4, 北京原人 5, 火 6, 周口店
7, ネアンデルタール 8, 埋葬 9, クロマニヨン 10, ラスコ 11, 氷河 12, 農耕 13, 獲得
14, 生産 15, 彩文 16, 磨製 17, 乾地 18, 灌漑 19, 青銅器 20, 文字

古代オリエント文明

【古代エジプト史】

<エジプト学の起こり>1799年, [1] 軍の将校ブサールが [2] 石を発見。

[エジプト遠征=英のインド経営を断つため]

{ [3] (神聖文字) …碑文・墓室・石棺などに刻まれた象形文字
 デモティック (民用文字・民衆文字)
 ギリシア語 [大英博物館 (ロンドン)] 1832年, [4] が解読。

前 5000 年頃, 仰韶文化 ※長江文明

前 4000 年頃から 40~50 のノモス (エジプト語でセパト=村落) の存在有り

抗争の後, 上・下エジプトに統合さる。

∴ [5] 王朝時代 [プトレマイオス朝時代の歴史家マネトの区分]

∴ [6] 語系の住む閉鎖的地形 [自然な要塞 (北=地中海・東西=砂漠)]

→安定した王権の成立=来世観の発達

※ナイル川の増減水を利用した豊かな農業 (定期的氾濫+麦の生育サイクルが整合)

【古王国時代 (前 27~前 22 世紀) =約 500 年 (第 3~第 6 王朝)】

前 3100 年頃, メネス (ナルメル) 王が両 (上下) エジプトを統一。都, [7]

第 4 王朝のとき最盛期=ピラミッド時代 [クフ (最大)・カフラー・メンカウラー]

∴メンフィスの近くの [8] に設立。[第 6 王朝時代以降衰退。]

「エジプトはナイルのたまもの (ヘロドトス『歴史』 (前 5 世紀半) に記載)」

※エジプト文化の隆盛。< [9] 暦の誕生と移り変わり>

太陽暦 { ナイル川の増水がメンフィスに達する日 (7月19日) を新年として1年を
 12ヵ月にわけ, 各月は30日よりなり, 毎年5日を加算する。

カエサルによりローマで公布。前 45 年, [10] 暦公布→1582 年 グレゴリウス暦 公布

仏革命暦 [30日×12ヵ月+5日 (革命記念日) / 宗教色の一掃・キリスト教紀元暦廃止。]

【中王国時代 (前 21~前 18 世紀) =約 250 年 (第 11・12 王朝)】

前 2000 年 竜山文化 前 20c クレタ文明

前 2050 年, 第 11 王朝が [11] (現ルクソール) に起こりエジプト統一。

∴ [12] [テーベの守護神]・ラー信仰の隆盛。

前 18 世紀頃, [13] (アジア系遊牧民) が馬と戦車で侵入。中王国滅亡後, デルタ地帯を支配

【新王国時代 (前 16~前 11 世紀) =約 480 年 (第 18~第 20 王朝)】

ヒクソスを撃退して成立 都テーベ

前 1600 年 ミケーネ文明・前 16 世紀 殷王朝

前 1550 年頃, 第 18 王朝の成立。トトメス 3 世 [シリア進出 (最大版図を形成)]

[14] 世 (イクナートン=イクン・アトン)

一元的支配の強化=前 14 世紀前半, テーベの神官 (アモン=ラー信仰) に

対抗上, [15] に遷都し, 唯一神 アトン信仰 を定む



<アマルナ美術>

※アマルナ美術 (写実的な表現に特色) と外交文書 (1887 年発見=バビロニア語)

ツタンカーメン (トゥ=タンク=アメン) の時テーベ, アモン=ラー信仰に戻る。

[※王陵の墓 (テーベ近郊=1922 年発掘) =横穴式羨道墳]

第 19 王朝, [16] 世 [シリアに進出し, ヒッタイトと交戦。(∴カデシュの戦い)]

前 13 世紀に和約

∴モーセの出エジプト (前 1269 年)

前 12 世紀 [17] ・アッシリア進出 (前 7 世紀に一時的に支配) により衰退。

前 525 年, アケメネス朝ペルシアの侵入で滅亡。

【古代メソポタミア地域史】 ティグリス・ユーフラテス川

「肥沃な三日月地帯」米人ブレステッド命名

<※メソポタミア学の起こりについて>

粘土板の〔 18 〕文字

ダリウス 1 世の

〔 19 〕碑文発見

※ヘンリー＝〔 20 〕

ペルシア語 } 1802 年, グローテフェント (独人)
エラム語 } ペルセポリス碑文で解読
バビロニア語 (古代アッカド語)
〔 20 〕 (英中尉) の発見・解読

∴ 開放的地形＝諸民族の激しい興亡 [現世的様相]

【〔 21 〕 人都市国家】

前 3300 年頃, ウル・ウルク (『ギルガメシュ叙事詩』) ・ラガシュに建設。

〔 22 〕 (聖塔) を中心に 神権政治 を展開 ∴ 楔形文字, 六十進法, 占星術, 彩文土器

銅や青銅などの金属使用 太陰暦 (※太陰太陽暦) 1 週 7 日制の使用

【アッカド王国 (前 24 世紀頃～前 22 世紀頃)】

〔 23 〕 語系アッカド人がシュメール都市を統合。

前 24 世紀頃, サルゴン 1 世 (戦争王) がメソポタミア最初の政治的統合を達成。

※前 2100 年頃ウル第 3 王朝 [シュメールの復活] 〔 24 〕 法典 (現存する最古の法典)

2 代, シュルギ (シュルギ法典) ∴ リピトイシュタル法典 (前 1930 年, イシン王朝)

【バビロン第 1 王朝 (古バビロニア王国 前 1900 年頃～前 1600 年頃)】

セム語系アムル人の建国。都, 〔 25 〕 (神の門) 守護神マルドゥク

前 18 世紀頃, 6 代 〔 26 〕 王の中央集権。

法典の編纂 { 約 280 項目・慣習法の成文化

(同害) 〔 27 〕 法の原理「目には目を, 歯には歯を」

[196 条以下身分的規定有り＝被害者の身分 (階級) により異なる刑罰]

←前 1600 年頃, 〔 28 〕 の侵入で滅亡。

【インド＝ヨーロッパ語系諸民族の台頭】

前 1600 年ミケーネ文明・前 16 世紀殷王朝

【ヒッタイト王国 (前 1650～前 1200)】 〔 29 〕 に成立。

〔 30 〕 武器 (最初に使用) と馬の使用で西アジアを制圧。

都ハットゥシャ (ボアズキョイ＝現トルコ領)

前 16 世紀初頭, 〔 31 〕 王国を滅ぼす。

∴ 前 1286 年, カデシュの戦い (×新王国 (ラメス 2 世) のエジプト軍)

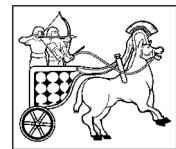
←前 1200 年頃, 〔 32 〕 の侵入により滅亡。

※【ミタンニ王国】 フルリ人が多数移住。都 ワシュカンニ 馬の飼育技術で有名。

※【カッシート (カッシュ) 王国 (前 1600 年頃～前 1150 年)】

バビロニア支配するが政治, 文化に忠実 [海の国] を間に入れ バビロン第 3 王朝 とも称す。

エラム人により滅亡



【セム語系諸民族の活動】

《 [33] 人》 前 1300 年頃, アラビアからシリア地方へ移住

前 13 世紀頃 [34] を拠点とし, 内陸アジア 隊商貿易を独占。

前 8 世紀末アッシリアに服属後, アラム語は国際語 (アケメネス朝の公用語) となる。)

{アラム文字→ソグド文字→突厥文字・ウイグル文字}

《 [35] 人》 ミケーネ文明の衰退を機に躍進 レバノン 杉, ガラス工芸

前 15 世紀, 東地中海沿岸に都市国家を形成 [シドン, ティルス, ウガリット, ビブロス, ベリツ]

ヒッタイト衰退後急速に発展。前 12 世紀 地中海貿易 を独占し大西洋沿岸まで植民市建設 ([36] 等)

フェニキア文字 = エジプト 象形文字や シイ 文字等の影響を受け 22 字の [37] 文字創始

〔ギリシアへ伝播 = ギリシア暗黒時代 (前 1200 ~ 前 800) [左→右・母音の表記が加わる。]

{都市国家の繁栄の影にフェニキアの影あり (文字・造船術・植民市の建設)}

《 [38] 人》 前 1500 年頃, ユーフラテス川流域から [39] に移住。

1 部 エジプト に入り新王国の抑圧から前 13 世紀頃 [40] による 出エジプト で カナン に移る

前 11 世紀末頃, イスラエル王国を樹立。2 代 [41] (ペリシテ人を排除・首都 エルサレム)

前 960 年頃, 3 代, [42] [王国最盛期。シオンの丘に宮殿・神殿を建設。]

前 922 年, 南北に イスラエル王国 (前 922 ~ 前 722) ← [43] により滅亡。

分裂 ユダ王国 (前 922 ~ 前 586 首都 エルサレム)

← [44] により滅亡 [※バビロン捕囚 (前 586 ~ 前 538)]

<※ユダヤ教(一神教)の形成。>

{前 6 世紀後半, アケメネス朝ペルシアにより解放後成立。ヤーウエの神殿再築。}

[ゾロアスター教 (善悪二神) の影響! = サタン (悪) の思想・『最後の審判』]

※ ユダヤ教の成立。{ヤハウエ唯一神礼拝, ヘブライ語で「在りて在る者」の意}

前 6 世紀, アケメネス朝ペルシアによる バビロン捕囚 解放後に神殿を再建し, 教団化する。

キュロス 2 世 (寛容主義) = 前 539 年に新バビロニアに侵入し, バビロンに入城

翌年, 解放令を發布 = エルサレム神殿再建 (第 2 神殿) ← 70 年ローマ人が破壊

旧約聖書 [律法主義 (モーセの十戒)]

〔一神教 (ヤハウエ) ・ 偶像を作らず ・ 神の名を悪用せず ・ 安息日の清潔
父母孝行 ・ 不殺生 ・ 不姦淫 ・ 不盗 ・ 不虚偽 ・ 人の物を望まぬ

救世主思想 [ヘブライ語で メシア, ギリシア語でキリスト] 選民思想 最後の審判

∴ 前 63 年, ローマ支配下による ヘロデの悪政期。[ユダヤ教の分裂]

〔サドカイ派 [モーセ律法のみ重視, 親ローマ的立場]

パリサイ派 [モーセ律法以外の伝承も尊重し, 形式主義に陥る。反ローマ的立場]

ナザレのイエスの出現 {神の絶対愛＝「ひたすら神を信ぜよ」 隣人愛＝「汝等の隣人を愛せよ」}
[ユダヤ教の排他制否定。] ←属州（ユダヤ）総督，ポンティウス＝ピラト処刑。[皇帝ティベリウス時代]

12使徒（直弟子）の伝道。{キリスト（救世主）の復活思想}

1世紀後半・2世紀前半にユダヤ戦争勃発（ローマ帝国への反乱）→ディアスポラ（亡国の民へ）
『旧約聖書』…ユダヤ教の教典 『新約聖書』とともにキリスト教の教典，ヨーロッパの思想や芸術活動の源泉

空欄解答（古代オリエント）]

1,	2,	3,	4,
5,	6,	7,	8,
9,	10,	11,	12,
13,	14,	15,	16,
17,	18,	19,	20,
21,	22,	23,	24,
25,	26,	27,	28,
29,	30,	31,	32,
33,	34,	35,	36,
37,	38,	39,	40,
41,	42,	43,	44,

【オリエン特統一国家の出現】

【 [1] 王国（前 8 世紀～前 612）】 [徹底した武断主義による国家。]

前 2000 年頃，メソポタミア（アッシェル）に建国。前 15 世紀にミタンニ王国に服属。

鉄製武器と戦車・騎兵で諸国を征服『オリエン特最初の統一』 **前 8c ポリス成立，前 770 東周（春秋時代）**

国内を州にわけける→総督の派遣→重税と圧政（服属民の反抗）

前 732 年，アラム王国征服（商人を保護し，アラム語を公用語とする）

サルゴン 2 世（前 722～前 705） [帝国最盛期。軍事的征服と重税，強制移住政策。]

∴前 722 年，イスラエル王国滅亡。

センナケリブ治世期 [2] (ティグリス川上流) に遷都（前 681）

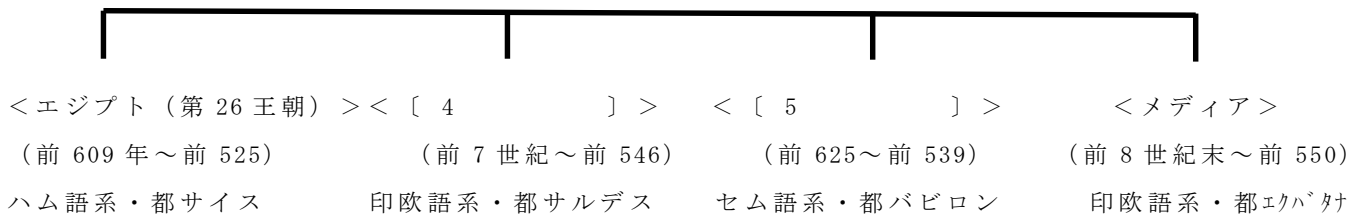
エサル＝ハドン {前 671 年 ([3])} , エジプトを征服しオリエン特統一。}

アッシェル＝バニパル王（前 668～前 627） [エジプトとエラム遠征・全盛期の王]

※世界最古の大図書館設立。

{19 世紀発見＝ギルガメシュ叙事詩(ウルクの伝説的王)／ノアの洪水伝説に類似。}

∴アッシリア王国は前 612 年に新バビロニア，メディアの連合軍により滅亡。



∴最古の金属貨幣（エレクトラム貨幣）を使用！

カルデア人（アラム人の 1 派）がナボポラッサルのとき独立。

[6] 世（前 604～前 562）

前 606 年カルケミッシュの戦い（エジプト＝ネコ 2 世）

∴前 586 年ユダヤ（ユダ王国）の反乱平定。（バビロン捕囚）

「バビロンの栄華」



<バビロンの空中庭園>

[城壁補修・ジググラト・空中庭園（バビロンの吊り庭）]

【 [7] （アカイメネス）朝（前 550～前 330）】

ペルシア＝ザクロス山中東南部南端，ファールス（パルサ）地方からおこったイラン地域の別称

前 2000 年頃，ペルシア（イラン）人（印欧語系）がイラン高原に移住。前 7 世紀，メディアに隷属。

前 7c～前 3c スキタイ人騎馬民族（黒海北岸）

キュロス 2 世（前 559～前 530）

[メディア（前 550 滅亡），カルデアを滅亡（前 538 年，ヘブライ人を解放。）]

寛容主義により，異民族の宗教・慣習を尊重→ユダヤ教成立

カンビュセス 2 世（前 529～前 522）

[前 525 年エジプト・エチオピアを征服しオリエント再統一]

[8] 世（前 522～前 486）

首都（行政の中心）[9]・王都 ペルセポリス 建設。[バビロン・エクバタナにも王宮有り。]
{西方はエーゲ海東岸・エジプトから東方はインダス川流域へ至る大領土を支配。}

※バヒストゥーン碑文

<中央集権体制の整備> 属州制の採用 駅伝制整備 「寛大な統治方法」

全国を約 20 州に分け [10] を任命。/ 巡察使を派遣。（王の耳、王の目）

金貨・銀貨の鑄造。[貨幣鑄造による税制改革。フェニキア人の貿易を保護]

[11]（軍用道路）の整備。[スサから小アジアのサルデス間（約 2,550 km）]

服属異民族には慣習，宗教面で寛容主義。

∴ [12] 教（拝火教・祆教）[ユダヤ教に影響！（サンの思想）]

[アフラ＝マズダ（善神）とアーリマン（ダエーヴァ＝悪神）の二元的哲学。]

『最後の審判』善神に味方した人の靈魂が救済

ペルシア戦争（前 500～前 449 年）[地中海の覇権をめぐりギリシアと抗争。]

{海上戦・傭兵制に弱点。※フェニキア人との関係に注意。[海上貿易を保護。]}

前 478 デロス同盟・前 453 晋の三分→前 403 戦国時代

トラップ°の離脱運動などで衰え，アレクサンドロスの侵入により，ダレイオス 3 世のとき滅亡。

[空欄解答（オリエント統一国家）]

1,	2,	3,	4,
5,	6,	7,	8,
9,	10,	11,	12,

イラン文明の興隆（アレクサンドロスの遠征（前334～前324）後）

※セレウコス朝シリア（前312～前63）・プトレマイオス朝（前304～前30）の影響

前3世紀半ば〔1〕アルサケス（遊牧イラン人の族長）カスピ海東南に建国

前2世紀半ばメソポタミア併合→都、クテシフォン（東西貿易の利益を独占して繁栄）

前1世紀頃からアラム語表記のペルシア語が公用語となり、ギリシア語文化圏から離脱

1世紀以降…イラン伝統文化の復活→ギリシア・イラン両方の神々を崇拝

【〔2〕朝（224～651）】

224年、ササンの孫のアルダシール1世がパルティアを破り、建国。都、〔3〕

ゾロアスター教の祭祀の家柄 アケメネス朝の後継者を自認

2代、〔4〕世 { ローマと抗争し軍人皇帝ウァレリアヌスを破る(260)
〔位 241～272〕 クシャーナ朝を攻撃。インダス川西岸まで進出。

∴5世紀になりローマとエフタル〔イラン、トルコ系？（白匈奴）〕が圧迫。

〔5〕世 { ○東ローマ皇帝（ユスティニアヌス1世）と戦いアンティオキア
〔位 531～579〕 を占領し、黒海へ進出。〔562年、50年間和平条約締結。〕
○558年頃、〔6〕と組んで〔7〕を討伐。

《ササン朝の宗教政策》

[ササン朝ペルシアは神権的専制君主国家でありながら多くの異端，異教乱立に注意。]

○ゾロアスター教が国教的地位＝〔8〕整理[終末観・最後の審判・救世主思想] ※松教

○〔9〕教 [3世紀，教祖マニ（ゾロアスター教にキリスト教，仏教を融合）]

東方への影響＝ソグド人，ウイグル人を経て中国へ。

[唐の則天武后時代に伝来。長安に大雲光明寺を768年建立。]

西方への影響＝カルタゴ生まれの有名な教父アウグスティヌスは元マニ教徒「告白録」

中世キリスト教の異端〔10〕派もマニ教の流れを受ける。

※12, 13世紀南仏で流行したアルビジョワ派は十字軍まで派遣さる[フィリップ2世～ルイ9世]

○〔11〕派キリスト教

{ 〔422年テオドシウス2世とワラフン5世との間でササン朝領内のキリスト教自由承認は成立。}

431年，エフェソス公会議でネストリウス派異端となる[←→アタナシウス派（三位一体説）]

ササン朝の保護から中央アジアを経て中国へと伝播する。〔12〕

[781年，大秦景教流行中国碑 ∴阿羅本（アラボン）]

637年，ヤズデギルド3世の時イスラーム軍にクテシフォンを占領され，

642年，ニハーヴァンドの戦いで敗れる。

※建築・美術・工芸の発達…銀器・ガラス器・毛織物・彩釉陶器の技術

東方…中国（南北朝・隋・唐）から朝鮮・日本（飛鳥・奈良時代）へ伝播

日本代表例…法隆寺の獅子狩文錦，正倉院校倉の漆胡瓶

[空欄解答（ササン朝ペルシア）]

1, _____ 2, _____ 3, _____ 4, _____
5, _____ 6, _____ 7, _____ 8, _____

古代インド世界

【 [1] 文明（前 2600 頃～前 1800 頃）】

ドラヴィダ系（地中海方面から移住？）による形成 [∴ 現在南インドに定住。]

- { [2] [パンジャーブ地方（インダス川中流）]
- { [3] （死者の丘） [シンド地方（インダス川下流）] ※ドーラヴィーラ

- [4] 文明・彩文土器の使用。 王宮，神殿の跡なし。
- 都市計画 [東西南北直交道路・排水溝（焼き煉瓦を使用。＝水洗トイレ）に特色。]
- 印章文字（インダス文字） [象，犀，こぶ牛，一角獣など。※牡牛の崇拜] 未解読。

《 [5] 人の侵入（カイバル峠越え）》 ∴インダス文明崩壊は洪水説が有力。

※インドヨーロッパ語系の牧畜民（前 2000 年頃，南西イラン高原へ）

第一次移動。 [前 1500 年頃にかけて馬により先住民を支配。]

多神教社会 [6] =ヴェーダ（聖典，知識の意） [前 1200 年頃，成立。数々の戦いの記述。]

∴ 4 ヴェーダ { 「サマ=ウエダ」 「ヤジャル=ウエダ」 「アタルウ=アウエダ」 }

前 1000 年頃，鉄器が普及

第二次移動 [前 1000 年頃， [7] 川流域にまで進出（人口増加で，肥沃な土地へ）]

∴農業生産力の上昇と奴隷の増大が，社会の階層化・固定化を進行→小都市国家群の発生。

アーリヤ人，移動した土地で先住民と交わる→定住農耕社会を形成

道具の変化：青銅器→森林開墾に適した [8] 道具・牛が引く木製犁の使用

稲の栽培などの余剰農産物→生産に直接従事しない司祭，武士階級が出現

○ [9] 制度の成立。 { ∴出生（ジャーティ）・古代的身分制（ヴァルナ=色） }

{ バラモン（司祭）クシャトリア（武士）・ヴァイシヤ（農民，商人）・シュードラ（隷属民） }

○ [8] 農具など農業技術の発展により，農業生産力の増大。

[10] ，ヴァイシヤの台頭→バラモン中心社会に対する不満（カスト否定の論理へ）

※前 600 年頃， [11] 「奥義書」 [バラモン教の内部的革新運動]

[ブラーフマナ（梵） {宇宙の根本原理} ・アートマン（我） {個人中心生命} 合一

=梵我一如（バラモン教の祭式至上主義に対する批判）] ※輪廻転生の教義

『前 6 世紀，カスト否定の立場にたつ，2つの宗教の誕生。』

※前 6 世紀後半ユダヤ教の成立

〈 [12] 教〉	〈 [13] 教〉
ガウタマ=シッダールタ	ヴァルダマーナ（マハ=ウーラ・ジナ=勝者）
（釈迦牟尼・釈尊）（前 563 年頃～前 483 年頃）	（前 549 年頃～前 477 年頃）
クシャトリア層などの支持 輪廻からの解脱	主にヴァイシヤ層などの支持
八正道による解脱。（苦行の否定苦行を重視。）	（ [14] 主義）
[正見・正思・正語・正業・正命・正精進・正念・正定]	∴ <u>西インドに現存</u> （組織化に成功）

※輪廻転生（生死は業により無限に繰り返される）

∴都市国家（16 国）は抗争，合併の後にマガダ国・コーサラ国などが発展。

[15] の遠征（前 327 年～前 325 年）を契機として，統一国家の成立待望。

【〔 16 〕 王朝（孔雀王朝）（前 317 年頃～前 180 年頃）】都、〔 17 〕

チャンドラグプタ王（位前 317 頃～前 296 年頃）がナンダ朝（マガダ国）を倒して建国。

西北インドからアフガニスタン方面（セレウコス朝シリアと抗争）まで拡大
3 代、〔 18 〕王（阿育王）（前 268 頃～前 232 頃）

〔最南部を除く、全インド征服を達成。〕 ∴ カリンガ国遠征の惨禍から仏教に帰依。

仏教立国〔ダルマ（法＝厳守すべき社会倫理）による統治。〕を建設。

〔 ○ 磨崖碑・石柱碑の建設。（ブラーフミー文字） ※ サーンチーにストゥーパ（仏塔）造営
○ 第〔 19 〕回仏典結集〔パーリ語經典編纂（小乗仏教）〕 → セイロン島へ流布。

（王子マヒンダを派遣）

第 1 回、仏典結集〔シャカ入滅、直後（マガタ国、ラージャグリハ）
第 2 回、仏典結集〔入滅、100 年後（マガタ国、ヴァイシャリ）〕

∴ 〔 20 〕 仏教 = 11 世紀、東南アジア（タイ・ビルマ）で流行。
〔個人の解脱・戒律重視などが特色。 ∴ 大衆部仏教〕

アショーカ王の死後、50 年で滅亡〔 ∴ アフガニスタン北部の民族興亡

= { 前 3 世紀半ば、バクトリア成立 ← トハラ（大夏） ← 前 1 世紀頃、大月氏 } 〕

張騫の大月氏派遣、前 139～前 126

【〔 21 〕 朝（貴霜王朝）（1 世紀～3 世紀）】イラン系クシャーナ人〔大月氏から自立〕

都、〔 22 〕〔現パキスタンのペシャワール〕

西トルキスタンより西北インド。カトフィス 1 世の建国。〔 ∴ カトフィス 2 世は後漢の班超軍と抗争。〕

3 代、〔 23 〕王（位 130 年頃～170 年頃）ガンジス川中流域まで拡大。

中国とローマを結ぶ交通路の要衝国際的な経済活動、大量の金貨発行

（貨幣に刻まれたイランやギリシア、インドの文字や神々）= 東西交流発展を示す

○ 第〔 24 〕回仏典結集〔サンスクリット語經典編纂。〔 25 〕 仏教（北伝）〕

∴ 理論的に発展。〔2 世紀、ナーガールジュナ（竜樹）「中論」〕 菩薩信仰による大衆救済
自分より他者の救済を優先

○ 〔 26 〕 美術〔バクトリア時代進出のギリシア人（ヘレニズム文化の影響）〕

= 仏像作製（カンガラーやマトラー中心） 3 世紀半ば、ササン朝ペルシアの圧迫で王朝が滅亡。

【※〔 27 〕（アーンドラ）朝（前 1 世紀～後 3 世紀）】

ドラヴィダ系アーンドラ族の王朝

都、プラティシュターナ（現パイタン） 1 世紀半頃ローマとの季節風（モンスーン）貿易で繁栄。

ローマの金貨・銀貨の流入、絹布・胡椒・宝石などを輸入 『エリュトウラー海案内記』

バラモン教を信仰し、ヴァルナ制を堅持。（仏教やジャイナ教も流行。）

【〔 28 〕 朝（320 年頃～550 年頃）】

チャンドラグプタ 1 世（位 320 年～335 年頃） 都 パータリプトラ（現パटना）

※ 天文学・数学の発達（十進法やゼロ(0)の概念（前 2 世紀発見）など）

3 代〔 29 〕世（超日王）（位 376 年頃～414 年頃）南インドを除く大半を征服。

○ 〔 30 〕 文学の流行 宮廷詩人カーリダーサ（5 世紀）「シャクンタラー」

（インド古典文化） 「マハーバーラタ」「ラーマーヤナ」二大叙事詩、完成。

○仏教 {大乘仏教 (菩薩信仰) 確立 [無着 (アサンガ)・世親 (ウァスバンドゥカー) 兄弟等の活躍。]}

[31] 様式 { アジャンター石窟寺院 (仏教関係) ∴北魏に影響
[32] 的様式 { エローラ石窟寺院 (仏教, ヒンドゥー教, ジャイ教の寺院)

∴ [33] (東晋) (5世紀初頭, 陸路→海路) の来朝。「仏国記 (法顕伝)」

∴ [34] 僧院 (5世紀~1200年頃) [4代, クマールグプタ 1世の創建]

○ [35] 教 --- バラモン教の教義を基礎として民間信仰などを加えたもの。

{4世紀以前=バラモン教, 4世紀以後=ヒンドゥー教と理解する。}

教祖, 統一した教義なし。 多神教的要素=偶像崇拜

{インド人の宗教=インド的 (Hindo) }

∴クリシュナ神

{ シヴァ神 (破壊)
ヴィシュヌ神 (維持・太陽)
ブラフマー神 (創造)

『マヌ (サンスクリット=人・ウァエダ=人類の祖) 法典』が完成。(前2世紀~後2世紀)

[商業の衰退により農業中心の生活規範 (各ヴァルナの権利・義務) がここで定着。]

←500年頃, エフタルが北インドに侵入。550年頃, 内乱などから滅亡。

【 [36] 朝 (606~647) 】 都, カノウジ

ハルシャ=ヴァルダナ (戒日王) (606~647) [1代限りの王朝 (後継者は不明)]

○仏教を保護。 [37] の来訪。(629~645) ハルシャ王と会見。『大唐西域記』

※ [38] の来訪 (671~695) 共にナーランダー僧院を訪問。[現ビハール州]

『南海寄帰内法伝』(スマトラ島の [39] 王国で著作)

<北インド> 地方勢力に分裂, ラージプート諸王国

(プラティーハーラ王国8c~11c・チャーハマーナ王国10c末~12c末) の台頭

11世紀初~イスラーム勢力の侵入

<南インド> ドラヴィダ系住民の独自の世界が存在 紀元前後から, タミル語の文芸活動が興隆

○**チョーラ朝** (前3~後13世紀) 南インドのドラヴィダ系タミル人の王朝

ローマ帝国の衰退→インド・東南アジアから中国へ大量の香辛料が輸出

○**パーンディヤ朝** (前3世紀頃~後14世紀) インド南端の王朝, 首都マドゥライ。

前1c末ローマ皇帝に使節を派遣

○**チャールキヤ朝** (6~8世紀) デカン高原から南インドを支配したドラヴィダ系

○**シンハラ王国** (前5世紀頃王国形成~19世紀初頭)

アーリヤ系のシンハラ人がセイロン島に移住して建国 前3世紀以降, 上座部仏教の布教中心

[空欄解答 (古代インド)]

- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 1, | 2, | 3, | 4, |
| 5, | 6, | 7, | 8, |
| 9, | 10, | 11, | 12, |
| 13, | 14, | 15, | 16, |
| 17, | 18, | 19, | 20, |
| 21, | 22, | 23, | 24, |
| 25, | 26, | 27, | 28, |
| 29, | 30, | 31, | 32, |
| 33, | 33, | 34, | 35, |
| 36, | 37, | 38, | 39, |
| 27, | 28, | | |